

銀の皿

「喜びについて」



CA 時代、よくミーティングや CA の礼拝の後、食事に行っていました。何気ない会話で大笑いし、時には信仰について熱く議論を交わすような時もありました。最近、そんな CA 時代を思い返していたのですが、夜通しテレビゲーム大会、鍋パーティ、海までドライブ等など、どれも本当に良い思い出でした。何故あんなに楽しかったのか？考えてみると、楽しい事を企画して実行しているから、ではありませんでした。それは同じ喜びを分かち合う仲間と一緒にいるからだ気づかされました。同じ喜びとは主を知った喜びであり、その喜びを主の兄弟姉妹として分かち合える喜びです。マタイ 18:20 「ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです。」これが私達の喜びの源です。

これらの事を色々考える時に、日常生活の中で本来の喜びを見失ってしまうことがあります。仕事を始めた時の喜び、いつもご飯を作ってくれる家族への喜び、いつも笑顔で接してくれる仲間への喜び、いつまでも愛し合っていきましょうと誓い合った夫婦の喜び等々様々です。礼拝の中でも語られたことですが、何故その喜びが損なわれていくのでしょうか？それは日常の中で求める事が変わって来るからです。仕事で気に食わない同僚やいつまでも続く残業、家で止まない不平と不満を聞き続ける、食卓でも食べる方も作る方も噴出する不満等々、一緒に居る事が喜びだった事が、一緒に居る事で喜べないに変わってしまうことがあります。そこで過剰に優しさ

や愛を求めて、お互い傷つくか、他者から愛を求めるか、何か他の形で欲求を埋めるか、人は求める対象を変化させていきます。しかし本当の喜びで満たされない限り、いら立ちや怒り不満からは解放されません。

今日の説教の原稿を書き終えた後、すぐ週報の交わりの三省を読み返しました。そこには「互いに愛し合っていますか」「互いに赦し合っていますか」「互いに祈り合っていますか？」と書かれてあります。時折、弓矢が心を刺すように言葉が刺さる時があります。あなたに本当の喜びが無い限りそれらを実行することが出来ません。真の喜びをもたらすのは人ではなく神です。その主に何度でも立ち返る時に、心は喜びで満たされます。私達は愛され、赦され、祈られているからです。そしてその事が知識で留まるのではなく体験へと変えられて行かなければなりません。そうでないと本当の喜びを届ける人には達しません。まずは自らの飢え乾きに率直に主を求め聖霊の助けを求めて行きたいと願います。そして聖霊の助けによって人を真理へ導く者へと変えられたいと切に願います。共に主をあがめ前進してまいりましょう。

交わりの三省

*** 互いに愛し合っていますか**

*** 互いに赦し合っていますか**

*** 互いに祈り合っていますか**